ど事故情報を集めるシステム ヒューマン研究センターで人 産業技術総合研究所デジタル を持つ国は少なくない。 ーストラリアや米国、タイな 故に学ぶことが不可欠だ。オ いるのかすら分からない」と システムがない。何が起きて 事故を防ぐには、過去の事 行動理解チームを率いる西 しかし日本にはそうした

ろうという研究が進められて を駆使して、事故防止策を探 事故」だ。そこで最新の技術 すい。一歳から十九歳までの 死因で最も多いのは「不慮の ことができず、事故に遭いや 映が潜んでいる。特に子ども にちはその危険から身を守る

前から横浜市の医師、山中

を構築し、データ分析を基に 工学的な対策を考える―。 西 事故情報を集めるシステム 故情報を収集。それを基に 力するシステムを開発した。 事故に遭った子どもを診察し 例を踏まえ「一緒にいた人 た医師がパソコンで情報をで 録されない。そこで過去の恵 がの種類や部位ぐらいしか記 病院のカルテには普通、は

立てるのに必要な入力項目を し、状況を再現して防止に役 事故に関係がある物」な 六歳末満の子どもが年間約 事例を分析

> なれば、ほかの病院にも展開 さんは「実際に使えるように したい」と語る。 これとは別に西田さんらは

さんの協力で四千五百件の関

(産総研 提供) 興味を持つことが分かった。 四十珍ほど離れた物体に最も 歳の子は、手を伸ばせば届く れまでの実験で九カ月から

ことが当面の目標という。

対象に情報収集を進めてい 力で子どもを持つ約二千人を 組みも検討中。ある企業の協 般から事故情報を集める什

この発達段階ではこうい

実に起きてしまった事故や起

の「法則」を探している。 で、乳幼児の動きを分析。こ 生活空間を模した実験室 こり得る事故の動画を自動的

に作るシステムを作り上げる

インターネットを使って、

田さんらの研究チームは三年

りに取り組んできた。 宏さんと、そんな枠組みづく 西田さんや同センター主任

研究員の本村陽一さんは山中 ステムの検証を始める。西田

田谷区)で、今年からこのシ 成育医療センター(東京都世

二千人、けがで受診する国立



研究 る」(本村さん) で動き、一日に何回転び、何 い状況を予見することができ 法則が分かれば、危険度の高 行動をするという

「緩い* 乳幼児はどれくらいの速さ

> と本村さんは指摘する。 商品の開発にも役立つはず けでなく、育児支援や安全な

る方針で、研究者や企業の参

研究結果は積極的に公表す

加を期待する。「事故防止だ

センサーを赤ちゃんに付け、 筋肉の動きをとらえる携帯型 回物をつかむのかー。次は、 多庭や保育

園などで行動を観 こうした研究を踏まえ、現

か」との打診もあるという。 に例がなく、タイや米国から う、こうしたシステムは世界 交通事故防止に使えない 最新技術を事故防止に使



(2人) など賞金を授与 はまとめて出版する。

市新川6の20の2、 スの番号、職業、 何十意 子メールアドレスを明記 め切りは7月31日(当日 選考結果は8月末に発表

など心疾患の発症率を調

査、承認が欧米より遅いこ とが多い。実は心臓ペース

メーカーなどの医療機器は

四田住史さんは言う。 行動理解チームを率いる マン研究センターで人間 台研究所デジタルヒュー

病院のカルテには普

からない」と産業技術総 が起きているのかすら分

するシステムを開発し

がパソコンで情報を入力 った子供を診察した医師 集。それを基に、事故に遭 千五百件の事故情報を収

したシステムがない。何

テムを構築し、データ分

らいしか記録されない。 通、けがの種類や部位ぐ

事故情報を集めるシス

「教育・育児」

や取締役などの立派な肩書を

男性更年期外来には、

えます。定年までは順風満帆 持っていた患者さんも多くみ

もできるとなると仲間を集め

事の支度や掃除、洗濯で遊

家事などで自立できない人

六十歳以降の女性なら「食

ルフだって、忙しい仕事の合 間だから楽しいので、いつで

つからないのです。

16

常に潜む子どもの危

策を探ろうという研究が進められている。 だ。そこで最新の技術を駆使して、事故防止 とができず、事故に遭いやすい。一歳から土 る。特に子供たちはその危険から身を守るこ 九歳までの死因で最も多いのは「不慮の事故 日常生活にはさまざまな危険が潜んでい

国は少なくない。 を集めるシステムを持つ 欠だ。オーストラリアや の事故に学ぶことが不可 米国、タイなど事故情報 遅れている日本 事故を防ぐには、過去 しかし日本にはそう 研究チームは三年前から 析を基に工学的な対策を くりに取り組んできた。 さんと、そんな枠組みづ 考えるー。西田さんらの 主任研究員の本村陽一さ 横浜市の医師、山中龍宏 んは山中さんの協力で四 西田さんや同センター

V

目を設けた。 え「一緒にいた人」「事 そこで過去の事例を踏ま 約二千人、けがで受診す 立てるのに必要な入力項 状況を再現して防止に役 故に関係がある物」など、 六歳未満の子供が年間

らは乳幼児の行動を観察 展開したい」と語る。 なれば、ほかの病院にも は「実際に使えるように 検証を始める。西田さん これとは別に西田さん

今年からこのシステムの る国立成育医療センター

(東京都世田谷区)で、

生活空間を模した実験 「法則」を探 塞で、

している。

し、行動の

析。これまでの実験で九 乳幼児の動きを分

> をとらえる携帯型センサ かー。次は、筋肉の動き

を赤ちゃんに付け、

転び、何回物をつかむの 速さで動き、一日に何回



動画で事故再現

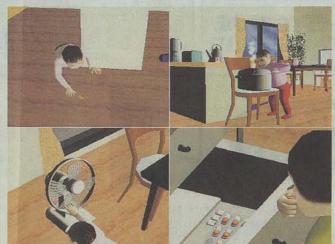
乳幼児はどれくらいの

を持つことが分かった。 ど離れた物体に最も興味 を伸ばせば届く四十珍ほ

情報収集システム開発

観察する計画だ。 庭や保育園などで行動を

こうした研究を踏ま



事故を再現する動画のイメージ(産総研デジタルヒューマン研究セ

表する方針で、研究者や

研究結果は積極的に公

報収集を進めている。

持つ約二千人を対象に情 ある企業の協力で子供を 集める仕組みも検討中。

て、一般から事故情報を

インターネットを使っ

が当面の目標という。

ステムを作り上げること

の動画を自動的に作るシ た事故や起こり得る事故 え、現実に起きてしまっ

いです。 ませんが、家庭では足手まと 社では有能だったのかもしれ

さんが、腰痛の発症からける一を出 タレントのみのもんだ記「それで みのさんが闘病記出 腰痛治療体験

診もあるという。

止に使えないか」との打 や米国から一交通事故防 は世界に例がなく、タイ

使う、ころしたシステム

最新技術を事故防止に

開発にも役立つはず」と 育児支援や安全な商品の 企業の参加を期待する。

事故防止だけでなく、

本村さんは指摘する。

1970000

刀項目を設けた。

9.0 HELP APPRILATED BET

で過去の事例を踏まえ「

病院のカルテには普通、

事故情報収集 発

から身を守ることができず、 められている。 事故防止策を探ろうという研究が進 だ。そこで最新の技術を駆使して、 死因で最も多いのは「不慮の事故 遭いやすい。一歳から十九歳までの んでいる。特に子供たちはその危险 日常生活にはさまざまな危険が愚 事故に

遅れている日本

ぶことが不可欠だ。オーストラリア 事故を防ぐには、過去の事故に学



や米国、 システムを持つ国は少なくない。 タイなど事故情報を集める

デジタルヒューマン研究センターで 分からない」と産業技術総合研究所 ムがない。何が起きているのかすら 間行動理解チー しかし日本にはそうしたシステ ムを率いる西田佳

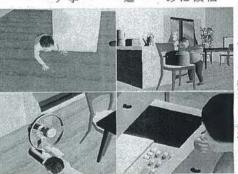


事故情報収集システムの入力画面

(産総研デジタルヒューマン研究

がで受診する国立成育医療センター

ジタルヒューマン研究センター 事故を再現する動画のイメージ(産総研デ



究員の本村陽一さんは山中さんの協力 できた。 考えるー。西田さんらの研究チームは テムを開発した。 医師がパソコンで情報を入力するシス を基に、事故に遭った子供を診察した で四千五百件の事故情報を収集。それ んと、そんな枠組みづくりに取り組ん 三年前から横浜市の医師、山中龍宏さ 事故情報を集めるシステムを構築 データ分析を基に工学的な対策を 西田さんや同センター主任研

再現して防止に役立てるのに必要な入 や部位ぐらいしか記録されない。そこ 「事故に関係がある物」など、状況を 一緒にいた人 けがの種類

六歳未満の子供が年間約二千人、 危険防止 常 子供 0 0

システムの検証を始める。西田さんは 病院にも展開したい」と語る。 (東京都世田谷区)で、今年からこの 実際に使えるようになれば、 ほかの

これとは別に西田さんらは乳幼児の

行動を観察し、 行動の「法則」を探し

四十珍ほど離れた物体に最も興味を持 月から二歳の子は、手を伸ばせば届く の動きを分析。これまでの実験で九カ つことが分かった。 生活空間を模した実験室で、

危険度の高い状況を予見することがで するという。緩い、法則が分かれば、 この発達段階ではこういう行動を (本村さん)

画で 再現

型センサーを赤ちゃんに付け、家庭や ることが当面の目標という。 保育園などで行動を観察する計画だ。 かー。次は、筋肉の動きをとらえる携帯 画を自動的に作るシステムを作り上げ てしまった事故や起こり得る事故の動 こうした研究を踏まえ、現実に起き 日に何回転び、 乳幼児はどれくらいの速さで動き、 何回物をつかむの

対象に情報収集を進めている。 る企業の協力で子供を持つ約二千 事故情報を集める仕組みも検討中。 全な商品の開発にも役立つはず」と本 事故防止だけでなく、育児支援や安 研究結果は積極的に公表する方針 インターネットを使って、 研究者や企業の参加を期待する。 一般から あ

米国から
交通事故防止に使えないか たシステムは世界に例がなく、タイや との打診もあるという。 最新技術を事故防止に使う、こうし

村さんは指摘する。

秋田さきがけ 2006-5-15

味を持つことが分かっ ど離れた物体に最も囲 を伸ばせば届く四十珍ほ

この発達段階ではこ

げることが当面の目標と

作るシステムを作り上 事故の動画を自動的に った事故や起こり得る え、現実に起きてしま

カ月から二歳の子は、手 析。これまでの実験で九

国は少なくない。 を集めるシステムを持つ 米国、タイなど事故情報 欠だ。オーストラリアや の事故に学ぶことが不可 事故を防ぐには、過去 「しかし日本にはそう 西田佳史さんは言う。 合研究所デジタルヒュー からない」と産業技術総 が起きているのかすら分 したシステムがない。何 マン研究センターで人間 動理解チームを率いる

横浜市の医師、山中龍宏 さんと、そんな枠組みづ 研究チームは三年前から 考えるー。西田さんらの 析を基に工学的な対策を テムを構築し、データ分 事故情報を集めるシス

ムを開発した。 故情報を収集。それを基 の協力で四千五百件の事 立てるのに必要な入力項 状況を再現して防止に役 え「一緒にいた人」「事 そこで過去の事例を踏ま らいしか記録されない。 通、けがの種類や部位ぐ で情報を入力するシステ 診察した医師がパソコン に、事故に遭った子供を 故に関係がある物」など、 病院のカルテには普

因で最も多いのは「不慮の事故」だ。そこで最新の技術を駆使して、事ら身を守ることができず、事故に遭いやすい。一歳から十九歳までの死日常生活にはさまざまな危険が潜んでいる。特に子供たちはその危険か

子供の事故

う研究が進められてい

故防止策を探ろうとい

検証を始める。西田さん 今年からこのシステムの る国立成育医療センター 約二千人、けがで受診す 目を設けた。 (東京都世田谷区)で、 六歳未満の子供が年間

なれば、ほかの病院にも は「実際に使えるように 村さん) することができる」(本 危険度の高い状況を予見 ういう行動をするという 『緩い』法則が分かれば、

タルヒューマン研究セ イメージ(産総研デジ 事故を再現する動画の

集める仕組みも検討中。 て、一般から事故情報を インターネットを使っ

育児支援や安全な商品の 企業の参加を期待する。 表する方針で、研究者や 報収集を進めている。 持つ約二千人を対象に情 ある企業の協力で子供を 「事故防止だけでなく、 研究結果は積極的に公

展開したい」と語る。

らは乳幼児の行動を観察

これとは別に西田さん

速さで動き、一日に何回

乳幼児はされくらいの

か―。次は、筋肉の動き

をとらえる携帯型センサ

を赤ちゃんに付け、

し、行動の「法則」を探

怪我 同取9例・メモー分析 日付2006年(平成18年)1月25日 ID 発達段階 おすわりもはいはいもできず寝たま 怪我をしたのはいっころ 正確な時間 **通道部** 認加 30.00 bbs 28t 1 年 年龄近以 3320 一緒にいた人が起こした行動 「塔とす 原因行動 不管深层的证据 老の行動は 意図的でない Digital Human Research Center 事故情報の登録 | Þの城し OK さんは山中さん 究員の本村陽 センター主任研 くりに取り組ん センタ 西田さんや同 力画面(産総 システムの入 ューマン研究 研デジタルヒ 事故情報収集

している。

生活空間を模した実験

乳幼児の動きを分

観察する計画だ。 庭や保育園などで行動を

こうした研究を踏ま

本村さんは指摘する。 開発にも役立つはず」と

最新技術を事故防止に

ると「その注射に副作用はないの んに神経プロックの説明をしてい (ペインクリニック)で、患者さ 痛みの治療を専門にする診療所 ▽少し血圧が下がるーなどです。 っくりされたりする方もいるかも ソモソする▽足に力が入りにくい 人によっては不快に感じたり、び

よりも強い麻酔効果が現れます。 のようになって、硬膜外プロック 足が動かなくなったり、血圧が下 直腸の手術時などに行う腰椎麻酔 一一はないとしている

予防知識を普及

診もあるという。 止に使えないか」との打 や米国から「交通事故防 は世界に例がなく、タイ 使う、こうしたシステム

脳卒中講座を開催 27日·秋田市

> な 古

んは言う。

乳幼児

分析

取り組んできた。西田さん

情報 システム開発

収集

主任研究員の

究センターで人間行動理解 究所デジタルヒューマン研 らない」と産業技術総合研 が起きているのかすら分か うしたシステムがない。何 ない。「しかし日本にはそ システムを持つ国は少なく タイなど事故情報を集める 事故に学ぶことが不可欠 た。オーストラリアや米国 チームを率いる西田佳史さ 事故を防ぐには、過去の 遅れている日本

と、そんな枠組みづくりに 園こどもクリニック院長) 基に工学的な対策を考える ムを構築し、データ分析を の医師、山中龍宏さん(緑 ムは三年前から横浜市泉区 ー。西田さんらの研究チー 事故情報を集めるシステ

0 事故

多いのは「不慮の事故」だ。そこで最新の技術を駆 使して、事故防止策を探ろうという研究が進められ 故に遭いやすい。一歳から十九歳までの死因で最も 士供たちはその危険から身を守ることができず、 日常生活にはさまざまな危険が潜んでいる。特に H

報を収集。それを基に、事 協力で四千五百件の事故情 本村陽一さんは山中さんの

去の事例を踏まえ「一緒に か記録されない。そこで過 けがの種類や部位ぐらいし 病院のカルテには普通 た。 力するシステムを開発し 医師がパソコンで情報を入 故に遭った子供を診察した

行動の法則探せ

体に最も興味を持つことが は届く四十だほど離れた物

る物」など、状況を再現し な入力項目を設けた。 て防止に役立てるのに必要 いた人」「事故に関係があ

行動の「法則」を探してい ら一歳の子は、手を伸ばせ これまでの実験で九カ月か 室で、乳幼児の動きを分析 る。生活空間を模した実験 は乳幼児の行動を観察し、 院にも展開したい」と語る。 るようになれば、ほかの病 る。西田さんは「実際に使え このシステムの検証を始め 都世田谷区)で、今年から 立成育医療センター(東京 一千人、けがで受診する国 これとは別に西田さんら 八歳未満の子供が年間約

企業の協力で子供を持つ約 める仕組みも検討中。ある て、一般から事故情報を集 一千人を対象に情報収集を インターネットを使っ

立つはず」と本村さんは指 や安全な商品の開発にも役 防止だけでなく、育児支援 の参加を期待する。「事故 する方針で、研究者や企業 進めている。 研究結果は積極的に公表

に使えないか」との打診も 摘する。最新技術を事故防 あるという。 や米国から「交通事故防止 ムは世界に例がなく、タイ 止に使う、こうしたシステ

予見

ンター提供 タルヒューマン研究セ イメージ(産総研デジ 事故を再現する動画の とができる」(本村さん) い。法則が分かれば、危険 いう行動をするという
が綴 度の高い状況を予見するこ 「この発達段階ではこう

動画で事故再現

携帯型センサーを赤ちゃん は、筋肉の動きをとらえる 何回物をつかむのかー。 さで動き、一日に何回転び、 り上げることが当面の目標 自動的に作るシステムを作 や起こり得る事故の動画を 現実に起きてしまった事故 で行動を観察する計画だ。 に付け、家庭や保育園など こうした研究を踏まえ、 乳幼児はどれくらいの速

事故防止策を探ろうという研究が進められている 死因で最も多いのは から身を守ることができず、事故に遭いやすい 日常生活にはさまざまな危険が潜んでいる。特に子供たちはその危険 「不慮の事故」だ。そこで最新の技術を駆使して、 事故を防ぐには、過去 一歳から十九歳までの

米国、タイなど事故情報 潜 国は少なくない。 したシステムがない を集めるシステムを持つ

「しかし日本にはそう 危険予見

テムを構築し、デ 西田佳史さんは言う。 析を基に工学的な対策を

事故情報を集めるシス ータ分

マン研究センターで人間 ムを率いる

乳幼児の行動分析も 西田さんらの 一年前から

病院のカルテには普▽法則を探せ

横浜市の医師、 そんな枠組みづ ムは三

研究者や

事故を再現する動画のイメージ(産総研 デジタルヒューマン研究センター提供

遭った子供を診察した医

合研究所デジタルヒュ 立てるのに必要な入力項状況を再現して防止に役 故に関係がある物」など、 そこで過去の事例を踏ま

> 乳幼児はどれくらいの ▽動画で事故再現

何回物をつかむの

一日に何回

筋肉の動き

けがで受

になれば、 これとは別に西田さん らは乳幼児の行動を観察 証を始める。 西田さいで、 今年か 行動の「法則」を探 「実際に使えるよう

B収集システム開発

室で、乳切見りり 生活空間を模した実験 った。「この発達没帯で 大では、 大がほど離れた物体に最 大がほど離れた物体に最 大がほど離れた物体に最

いう「緩い」 う行動をすると 法則が分か

を予見することができれば、危険度の高い状況

約二千人、けがで受 大歳未満の子供が年間

センター(東京都世

ほかの病院に をとらえる携帯型センサ をとらえる携帯型センサ 表する方針で、 が当面の目標という ステムを作り上げること の動画を自動的に作るシ た事故や起こり得る事故 観察する計画だ。 企業の参加を期待する こうした研究を踏ま 研究結果は積極的に公

現実に起きてしま

開発にも役立つはず」と 育児支援や安全な商品の

本村さんは指摘する。

最新技術を事故防止に

診もあるという。 止に使えないか」との打や米国から「交通事故防 は世界に例がなく、



から思ってもみなかったさまざまな現これまで約三十年の間、お母さん方

親育て

のすすめ

人の本当の気持ちに近づくほど、暗い 圏をのぞかざるを得なくなったことも 多かったのです。 それが母親の及第点だと考えて いるようなのに、その い顔なんてできませ 努力目標な そんな言 という 苦しさ我慢しないで

葉の前では苦し

現実には達成できない

で「こんな子嫌い」と言って大自身の気持ちが崩れそうなら、 で「こんな子嫌い」と言って大丈夫。旧身の気持ちが崩れそうなら、心の中います。必死の努力が報われず、自分 ます。必死の努力が報われず、自分「そんなに素直に信じないで」と思

明るく楽

「子育てを楽しみましょう」

生まれます。思った通りに行動すれば いいのです。 子育てのため頭の中にいろいろな知 音を詰め込んだはずなのに、実際には がなったのお母さんがしていたことその になって、 。 思った通りに行動すれば

でそっくり。でも大しこ。 ゃんとした大人になっているのですかでそっくり。でも大丈夫。あなたはち

イラスト・いそのみつえ

う。地元の保健センターなどを訪ねて

合える日がきっと来ま

わたし自身も

ゆっくり自分探しをしまし

そんな人は、

素直なあなたを取り戻す

駄目という入もいるかもしれません

しかし、自分の母親のやり方は絶対

救われま した。わたしは、子供から「子育て子育でを振り返らざるを得なくなり だったことは認めるよ」という言葉に 下手」と言われた『駄目親 く子供と付き合える日がきっ 独立して家を出る時の

「でも本気 ″です。で

テ供は、そんなに遠くない日に親の 合ってくれてありがとう。とっても面 合ってくれてありがとう。とっても面 白かったよ」と言って送り出しましょ しましょ つち本気になってくやしがり、

番強くて一番カッコいい存在なの 今でも流星と遊星はマサシちゃ

る)だの、手荒なことをよしとしてがりに保湿クリームをガンガンめ いるようだ。 しずくが飛び散っ 「男ぬり」 し、双子というよ (冬の湯あ

石川三千花の いきなり双子

といいながら軽めに優越感にひたっすり出すと私がだっこするしかな は、おっぱいを吸っているうちはやた。それなのに、赤ん坊というもの そのほかは何でも二人でこなしてき乳をあげることだけだったと思う。 えに彼のおかげなのである。 うして仕事を続けられるのは、ひと常に子育てに協力的だった。私がこ っぱり母親の方に来たがるのだ。 彼が育児でできなかったのは、

たものだ。 かった。そのころは、 の、母親とか保育園の保育士さんを アザをつくっていた がすごくて、 遊星は 流星のしっと

(5)

ダンナのマサシちゃんは

ほどだ。

そ、彼らにとって、

かなわないからこ

彼らにとってはおとうさんが

すらと涙を流しながらもかかってゆ

ばも自由にしゃべることができるよ うになると、こんどはおとうさん大 好きになる。もちろん、赤ん坊のと さから彼らはおとうさんが大好きだ なんというか、 男同士の仲にな なわない。パンチ 星と遊星が二人いっしょになって向てくると、夕食前にまず一戦だ。流 るみたいなのだ。 は、戦いごっこ。保育園から帰っ

父親 とは 男同士

が取っ組み合い はチームを組 そうだが、 最初はキ う場

おとうさり して、親子三人 プロレス 洗う)だの、 洗面所を見るにつけ

析を基に工学的な対策を

西田さんらの

四田佳史さんは言う。

事故情報を集めるシス

六歳未満の子どもが年

けがで受診

事故や起こり得る事故

動画を自動的に作るシ

7動理解チ

ムを率いる

立てるのに必要な入力項

観察する計画だ。

こうした研究を踏ま

現実に起きてしま

や保育園などで行

動

を赤ちゃんに着け

状況を再現して防止に役

をとらえる携帯型センサ

次は、 何回物をつかむの

マン研究センターで人間

らは乳幼児の行動を観察

行動の「法則」を探

している。

から身を守ることができず、

日常生活にはさまざまな危険が潜んでいる。特に子どもたちはその危

事故に遭いやすい

歳から十

九歳まで

は「実際に使えるように

ほかの病院にも

検証を始める。

展開したい」と語る。

これとは別に西田さん

事故を防ぐには、 灅 ムは三年前から

労感を

干五百件の事故情報を収 くりに取り組んできた。 王任研究員の本村陽一さ 遭った子どもを診察した んは山中さんの協力で四 西田さんや同センター それを基に、 そんな枠組みず 事故に

を持つことが分かった。

と離れた物体に最も興味 を伸ばせば届く四十だほ カ月から二歳の子は、

ついう行動をするという

「この発達段階ではこ

緩い。法則が分かれば、

新しく

を集めるシステムを持つ 米国、タイなど事故情報 しても

の事故に学ぶことが不可

横浜市の医師

山中龍宏

室で、乳幼児の動きを分

これまでの実験で九

E2-11-12

生活空間を模した実験

ストラ

さんと、

医師がパソコンで情報を ハカするシステムを開発

▼「法則」探せ

国は少なくない

台研究所デジタルヒュ か起きているのかすら分 したシステムがない しかし日本にはそう と産業技術総 そこで過去の事例を踏ま 故に関係がある物」など、 え「一緒にいた人」 病院のカルテには普 しか記録されない けがの種類や部位ぐ

速さで動き、

日に何回

乳幼児はどれくらい

動画を製作

最新技術 で危険予

村さん

FITH COMPTS TATELLING

することができる」 危険度の高い状況を予見

過去の事例集め状況再現

年からこのシステムの (東京都世田谷区)で、 集める仕組みも検討中。 ステムを作り上げること

人を対象に

研究者や

師会の先生方が回答します。相談希望の方は症状を分

崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係までお送りく

不明な点を問い返す場合がありますので、住所、 電話番号をはっきり書いてください。

中山を再現する動画のイメージ (産総研デジタル

する国立成育医療センタ

が当面の目標という。

一般から事故情報を

ネットを使っ

本村さんは指摘する。 を持つ約二十 ある企業の協力で子ども は世界に例がなく、 開発にも役立つはず」と 企業の参加を期待する。 表する方針で、 情報収集を進めている。 育児支援や安全な商品の 「事故防止だけでなく、 研究結果は積極的に公 最新技術を事故防止に こうしたシステム

や米国から「交通事故防

いませつい

軍

不慮の ---19歳 最も多い死因



事故を再現する動画のイメージ (産総研

なれば、

展開したい」と語る。

は「実際に使えるように 検証を始める。西田さん 今年からこのシステムの

ほかの病院にも

らは乳幼児の行動を観察

「法則」を探

ず」と本村さんは指摘す 品の開発にも役立つは これとは別に西田さん

く、育児支援や安全な商

事故防止だけでな

ている。 し、行動の

での死因で最も多いのは「不慮の事故」だ。そこで最新の技術を駆使 険から身を守ることができず、事故に遭いやすい。一歳から十九歳ま て、事故防止策を探ろうという研究が進められている 日常生活にはさまざまな危険が潜んでいる。特に子供たちはその危

んは山中さんの協力で四

を持つことが分かった。

「この発達段階ではこ

国は少なくない。 米国、タイなど事故情報 を集めるシステムを持つ の事故に学ぶことが不可 事故を防ぐには、 「しかし日本にはそう オーストラリアや 過去 さんは言う。 チームを率いる西田佳史 デジタルヒューマン研究 からない」と独立行政法 センターで人間行動理解 人・産業技術総合研究所 考えるー。 横浜市の医師、 研究チームは三年前から テムを構築し、 さんと、そんな枠組みづ 析を基に工学的な対策を 西田さんらの 山中龍宏 データ分

主任研究員の本村陽一さ くりに取り組んできた。 西田さんや同センター 状況を再現して防止に役 故に関係がある物」など、

え「一緒にいた人」「事 そこで過去の事例を踏ま らいしか記録されない。 通、けがの種類や部位ぐ 力するシステムを開発し 師がパソコンで情報を入 集。それを基に、事故に 千五百件の事故情報を収 遭った子供を診察した医 病院のカルテには普

動画で事故再現

することができる」(本

危険度の高い状況を予見 「緩い」法則が分かれば、 ういう行動をするという

観察する計画だ。 庭や保育園などで行動を をとらえる携帯型センサ 転び、何回物をつかむの 速さで動き、 かー。次は、 を赤ちゃんに付け、 乳幼児はどれくらいの 筋肉の動き 一日に何回

が起きているのかすら分

事故情報を集めるシス 幅広い入力項目

したシステムがない。

開発着

総合研など

が当面の目標という。 ステムを作り上げること の動画を自動的に作るシ に事故や起こり得る事故 へ、現実に起きてしまっ こうした研究を踏ま 一般から事故情報を

企業の参加を期待してい 表する方針で、研究者や 集める仕組みも検討中。 報収集を進めている。 ある企業の協力で子供を 持つ約二千人を対象に情 研究結果は積極的に公 インターネットを使っ

約二千人、けがで受診す

六歳未満の子供が年間

る国立成育医療センター

(東京都世田谷区)で、

目を設けた。 立てるのに必要な入力項

ど離れた物体に最も興味 を伸ばせば届く四十ちほ カ月から二歳の子は、 室で、乳幼児の動きを分 生活空間を模した実験 これまでの実験で九 診もあるという。 止に使えないか」との打 は世界に例がなく、タイ 使う、こうしたシステム や米国から「交通事故防 最新技術を事故防止に

民

できた。

す 日常生活にはさまざまな危険が

潜んでいる。特に子供たちはその という研究が進められている。 を駆使して、事故防止策を探ろう 慮の事故」だ。そこで最新の技術 歳までの死因で最も多いのは「不 事故に遭いやすい。一歳から十九 危険から身を守ることができず、 たシステムがない。何が起 「しかし日本にはそうし

ムを率いる西田佳史さんは デジタルヒューマン研究セ きているのかすら分からな ンターで人間行動理解チー い」と産業技術総合研究所

(産総研デジ

メージ

を基に、事故に遭った子供

ムは三年前から横浜市の医 ムを構築し、データ分析を な枠組みづくりに取り組ん 師、山中龍宏さんと、そん ー。西田さんらの研究チ 基に工学的な対策を考える 事故情報を集めるシステ 唯

システムを持つ国は少なく だ。オーストラリアや米国 事故に学ぶことが不可欠 タイなど事故情報を集める 事故を防ぐには、過去の 駆 使 山中さんの協力で四千五百 任研究員の本村陽一さんは 西田さんや同センター主

都世田谷区)で、今年から

しのシステムの検証を始め

や起こり得る事故の動画を

現実に起きてしまった事故

こうした研究を踏まえ、

自動的に作るシステムを作

立成育医療センター(東京

一千人、けがで受診する国

で行動を観察する計画だ。

に付け、家庭や保育圏など 携帯型センサーを赤ちゃん

八歳未満の子供が年間約

な入力項目を設けた。

る物」など、状況を再現し いた人」「事故に関係があ

何回物をつかむのかー。次 さで動き、一日に何回転び、

は、筋肉の動きをとらえる

て防止に役立てるのに必要

るようになれば、ほかの病 る。西田さんは「実際に使え

り上げることが当面の目標

院にも展開したい」と語る。

これとは別に西田さんら

インターネットを使っ 一般から事故情報を集

は乳幼児の行動を

める仕組みも検討中。ある

彩 件の事故情報を収集。それ

報収集システムの入力 (産総研デジタルヒュ

児の助きを分析。 た実験室で、乳幼 則を探している。 観察し、行動の「法 これまでの実験で 生活空間を模し

進めている

研究結果は積極的に公表

二千人を対象に情報収集を 企業の協力で子供を持つ約

離れた物体に最も興味を持 つことが分かった。 子は、手を伸ばせ ば届く四十たほど 九カ月から二歳の 摘する。 立つはず」と本村さんは指 や安全な商品の開発にも役 防止だけでなく、育児支援 の参加を期待する。「事故 する方針で、研究者や企業

か記録されない。そこで過 けがの種類や部位ぐらいし で情報を入力するシステム を診察した医師がパソコン 去の事例を踏まえ「一緒に 病院のカルテには普通、 とができる」(本村さん) 度の高い状況を予見するこから「交通事故防止に使え い。法則が分かれば、 いう行動をするという。緩 乳幼児はどれくらいの速 「この発達段階ではこう 危険 ないか」との打除もあると 界に例がなく、タイや米田 う、こうしたシステムは世 最新技術を事故防止に使

からない」と産業技術総 が起きているのかすら分

さんと、そんな枠組みづ 横浜市の医師、山中龍宏 研究チームは三年前から 析を基に工学的な対策を

病院のカルテには普 けがの種類や部位ぐ

したシステムがない。

しかし日本にはそう

考えるー。

西田さんらの

医師がパソコンで情報を 集。それを基に、事故に 理った子どもを診察 した 人力するシステムを開発

合研究所デジタルヒュ

国は少なくない を集めるシステムを持つ 欠だ。オーストラリアや の事故に学ぶことが不可

事故を防ぐには、

情報収集システム開発が着

木国、タイなど事故情報

西田佳史さんは言う。 マン研究センターで人間

ムを率いる

主任研究員の本村場一さ

西田さんや同センター

-五百件の事故情報を収 んは山中さんの協力で四

テムを構築し、データ分 事故情報を集めるシス

むパーキンソン病患者と支援 社会活動、5人表彰 社会活動に積極的に取り組

後も活動を支援する惣坊君代 さん(8) ―和歌山県新宮市、

審査員賞は大井健さん(63)

リリーが主催、今年が第4回 極端な怠惰、病気? 極端な怠惰というのは病気

損害を与えているという リアル (約2000億円) 国経済に年間24億オーストラ がこの病気に当てはまり、

係収 間取り図・メモニ分析

日常生活 に 潜む子ども

事故防止策を探ろうという研究が進められている。 のは「不慮の事故」だ。そこで最新の技術を駆使して、 どもたちはその危険から身を守ることができず、 に遭いやすい。 日常生活にはさまざまな危険が潜んでいる。特に子 一歳から十九歳までの死因で最も多い 事故





事故を再現する動画のイメージ マン研究センター提供

析。これまでの実験で九 室で、乳幼児の動きを分 展開したい」と語る。 なれば、ほかの病院にも は「実際に使えるように 今年からこのシステムの する国立成育医療センタ 目を設けた。 立てるのに必要な入力項 状況を再現して防止に役 故に関係がある物」など え「一緒にいた人」「曹 そこで過去の事例を踏ま らいしか記録されない 検証を始める。西田さん 間約二千人、けがで受験 生活空間を模した実験 六歳未満の子どもが年 (東京都世田谷区)で、 を伸ばせば届く四十珍ほ

Digital Human Research Center

事故情報収集システムの入力画面

ーマン研究センタ

追加

in to

OK

。緩い、 法則が 分かれば、 ういう行動をするという を持つことが分かった。 ど離れた物体に最も興味 この発達段階ではこ

が当面の目標という。 ステムを作り上げること の動画を自動的に作るシ た事故や起こり得る事故 観察する計画だ。 かー。次は、筋肉の動き 速さで動き、 することができる」(本 庭や保育園などで行動を をとらえる携帯型センサ 転び、何回物をつかむの 危険度の高い状況を予見 こうした研究を踏ま を赤ちゃんに付け、 乳幼児はどれくらいの 現実に起きてしまっ 一日に何回